

読響

Yomiuri Nippon
Symphony
55th
Orchestra
55th Anniversary

響

炎の小林研一郎 チャイコフスキイ

読響ソロ・チェロ奏者
遠藤真理がドヴォルザークの
名曲を弾く！



ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 口短調 作品104

Dvořák: Cello Concerto in B minor, op. 104

チャイコフスキイ：交響曲第3番 二長調 作品29

Tchaikovsky: Symphony No. 3 in D major,
op. 29 "Polish"

「ポーランド」

入魂のタクトで音楽に命を吹き込む
日本を代表するマエストロ

指揮：小林 研一郎 (特別客演指揮者)

Conductor: Ken-ichiro Kobayashi

コンサートマスター：小森谷 巧

Concertmaster: Takumi Komoriya

読売日本交響楽団 第199回 土曜マチネーシリーズ
Saturday Matinée Series, No. 199

2017年 7月 1日(土) 14時開演
東京芸術劇場 コンサートホール

Saturday, 1st July 2017 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

プラハ響やウィーン室内管などと共に演し、
国際的に活躍するチェリスト

チェロ：遠藤 真理 (読響ソロ・チェロ奏者)

Cello: Mari Endo

読売日本交響楽団 第199回 日曜マチネーシリーズ
Sunday Matinée Series, No. 199

2017年 7月 2日(日) 14時開演
東京芸術劇場 コンサートホール

Sunday, 2nd July 2017 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

お申し込み・お問い合わせ 読響チケットセンター **0570-00-4390** (10時～18時・年中無休) <http://yomikyo.or.jp/>

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：



文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）

事業提携：東京芸術劇場

小林研一郎のタクトが生む 《魂のチャイコフスキイ》

読響ソロ・チェロ奏者の
遠藤が奏でるドヴォルザーク



“炎のマエストロ”小林研一郎（読響・特別客演指揮者）は、77歳となった今も第一線で活躍し、高い人気を誇る。どんな曲でも全身全霊を傾け、一つ一つの音に魂を込めて、ライヴならではの熱い音楽を引き出す。さらに聴衆や楽団員を魅了するまっすぐな性格と純粋無垢な人柄を持ち合わせていることも人気の秘密。だから、皆から親しみをこめて「コバケンさん」と呼ばれ、愛されているのだ。

今回、小林はドヴォルザークとチャイコフスキイの名曲二つを披露する。チャイコフスキイの交響曲第3番「ポーランド」は、チャイコフスキイ独特の親しみやすい旋律や舞曲のリズムにあふれる隠れた名曲だ。第1楽章の行進曲風の確信に満ちた力強い旋律や第3楽章の極上の美しい世界が印象的だ。第5楽章ではポーランドの舞曲「ポロネーズ」のリズムが繰り返され、力強いクラマックスへと進む。最高潮での輝かしいテーマは圧倒的な感銘をもたらす。小林は、持ち前のエネルギーと指揮で、甘美なメロディをたっぷりと歌いこみ、躍動感あふれるリズムに命を吹き込むだろう。

前半では、チェロの代表作とされるドヴォルザークのチェロ協奏曲を演奏する。この作品は、ボヘミアの民俗色が濃厚で、チェロという楽器の持つ表現能力を最大限に活かしている。独奏チェロは、哀愁を帯びた低い音域を朗々と歌い、一方で明快なメッセージを表情豊かに奏でる。

今回、独奏を務めるのは、4月に読響ソロ・チェロ奏者に就任した遠藤真理。これまでソリストとして国際的に活躍してきた遠藤が、就任後に初めてソロを披露する機会となる。遠藤は、この作品を「少なくとも30回以上。覚えてないぐらい（笑）」演奏し、経験が豊富だが、それでも「毎回、違った魅力に出会う」と語る。読響とは2011年のサマーフェスティバル（三大協奏曲）でもこの曲を共演し、絶賛された。今回さらに成熟した音楽性で魅了し、作品の奥深さを引き出してくれるだろう。

小林 研一郎（指揮）

Ken-ichiro Kobayashi, Conductor

“コバケン”の愛称で親しまれている世界的指揮者。2011年8月から、読響特別客演指揮者の任にある。東京芸術大学作曲科および指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞受賞。数多くの音楽祭出演のほか、欧洲の一流楽団を多数指揮。02年の「 Brahms の春」音楽祭では、東洋人で初めてオーブニングコンサートの指揮者に招かれ「わが祖国」全曲をチェコ・フィルと演奏し、絶賛された。これまで、ハンガリー国立響の音楽総監督やチェコ・フィル常任客演指揮者をはじめ、国内外の数々の楽団のポジションを歴任。現在、日本フィル桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィル、名古屋フィルの桂冠指揮者、九響の名誉客演指揮者、東京文化会館音楽監督、東京芸術大学、東京音楽大学、リスト音楽院の名誉教授などを務める。2013年秋の叙勲で旭日中綬章が授与された。オクタヴィア・レコードなどから数多くのCDをリリースし、読響とはブルームスの交響曲の全曲録音に取り組んでいる。

©中山かつみ



遠藤 真理（チェロ）

Mari Endo, Cello

4月から読響ソロ・チェロ奏者を務める我が國が誇る名手。東京芸術大学を首席で卒業。臼井洋治、河野文昭、山崎伸子、藤森亮一、C.ハーゲンの各氏に師事。日本音楽コンクール第1位、「 Brahms の春」国際コンクール第3位（1位なし）、マイナーリディ国際コンクール第2位など受賞多数。07年ザルツブルクのモーツアルテウム音楽大学修士課程を満場一致の最高点で卒業。09年に齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。これまでにウィーン室内管、ブラハ響、読響、都響など国内外の楽団に招かれ、小林研一郎、山田和樹、G.ボッセ、J=P.ヴァレーズら指揮者と共に演奏。ドイツ・キームガウ春の音楽祭、神戸国際芸術祭などで室内楽奏者としても国際的に活躍。10年NHK大河ドラマ「龍馬伝」の「龍馬伝紀行」（第三部）での音楽演奏を担当。3枚のソロ・アルバムなどをエイベックス・クラシックからリリース。12年からNHK-FMのクラシック音楽番組「きらクラ！」でパーソナリティを務めるなど活動の幅を広げている。

読売日本交響楽団 第199回 土曜マチネーシリーズ

2017年 7月 1 日 (土) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

東京芸術劇場 コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1 Tel. 03-5391-2111
JR・西武池袋線・東武東上線・東京メトロ「池袋」駅西口より徒歩2分（*駅地下通路2b出口と直結しています）

読売日本交響楽団 第199回 日曜マチネーシリーズ

2017年 7月 2 日 (日) 14時開演
S ¥7,500 / A ¥5,500 / B ¥4,500 / C ¥4,000

注記：東京芸術劇場には一時託児施設があります（公演1週間前までに予約）。長谷川キャリアサポート株式会社 わらべうたBS課 0120-415-306（予約受付：平日9時-17時）

■ 学生券：学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます（要学生証／25歳以下）。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■ 都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■ 未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390 読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*10時-18時・年中無休

*座席選択してチケットをご購入いただけます（一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く）。*郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド：チケットぴあ 0570-02-9999、東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296